

☆赤ちゃん先生



先日、3年生の家庭科の授業で「赤ちゃん先生」という保育の授業が行われました。

昨年も実施されましたが、「NPO法人ママの働き方応援隊」の皆さんによる授業で、0歳から4歳の乳幼児やお母さん方と実際に触れ合ったり、様子を観察したり、親の立場からの話を聞いたりすることによって、生徒が自分自身の成長を振り返りながら、乳幼児の特徴について深く学び、育ててもらった周りの人々への感謝の気持ちを持てるようにすることを目的としたものです。

初めのうちは、赤ちゃんを前に、おっかなびっくりの様子でしたが、次第に慣れてきて、あやしたり、抱っこしたりしながら、赤ちゃんとのふれあいを楽しんでいました。

お母さん方の子育ての苦労や喜びを聞きながら、自分のことを振り返っている生徒もいました。

将来、自分が子育てに関わるようになったときに、きっと今回の経験を振り返るのではないかと考えています。



☆着付け体験教室

11月19日（火）に着付け体験教室が行われました。体験したのは2年生の生徒たちで、伊勢崎銘仙の会の方々に着付けをしていただきました。

質疑応答形式で伊勢崎銘仙の特徴や素晴らしさを分かりやすく教えていただきました。

生徒数が多いため全員が着ることは難しいのですが、羽織を羽織ることができた生徒も大勢いて、貴重な体験ができました。

着物というと着るのが大変なイメージがありましたが、銘仙の会の方々が実に手際よく着付けをしてくださり、あっという間にかっこいい男子、素敵な女子が次々に出来上がりました。生徒の皆さんは、みんな満足そうな顔をしていましたね。

最後はファッションショーさながらのランウェイも行われ、大いに盛り上がった2時間でした。

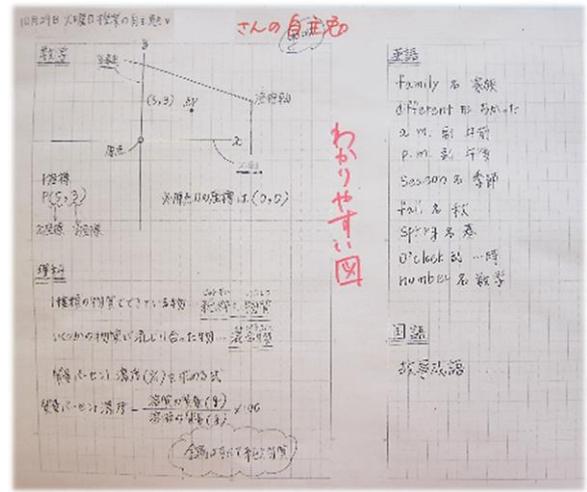
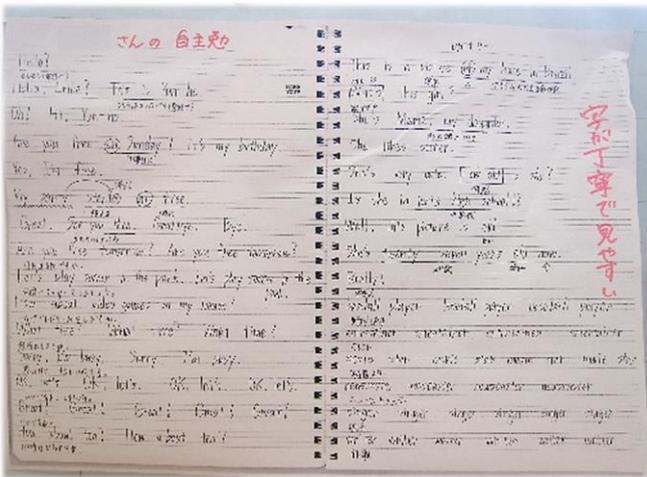
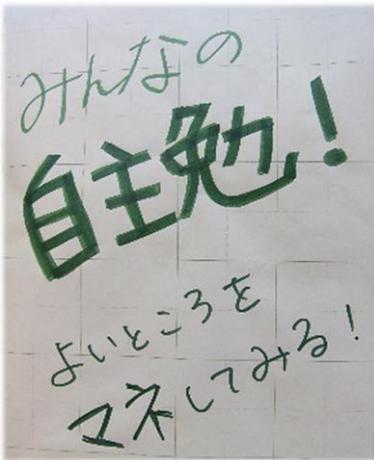


☆自主勉強について

1年生の廊下を歩いていたら、左のような掲示物を見かけました。よく見ると、生徒が自宅で取り組んだ自主勉強のノートを紹介したものでした。

「学ぶ(まなぶ)」という言葉は「まねぶ(まねをする)」という言葉が語源であると言われています。「人のまねをする」というと何か良くないことのように思われがちですが、良いものはどんどんまねをしましょう。掲示されている勉強のノートをよく見て、まずは自分で取り組んでみましょう。

そして、あなたも「その勉強法いいね。私もまねをしようかな」と言われるようになれば、その勉強方法は良いものだと思います。



☆^{しょんわす}初心忘るべからず

世阿弥(ぜあみ)という歴史上の人物の名前を聞いたことがあるでしょうか。

室町時代初期に活躍した猿楽師(さるがくし)で、父の観阿弥(かんあみ)とともに猿楽(現在の「能」)を完成させた人です。

世阿弥は「風姿花伝(ふうしかでん)」という能の理論書を書きましたが、その中で「初心忘るべからず」という言葉を述べています。

一般的には「はじめの志(こころざし)を忘れてはならない」という意味で使われることが多いと思いますが、世阿弥が伝えようとしたことはどうやら違うようです。

世阿弥は「風姿花伝」の中で「若い時の初心」「人生の時々の初心」「老後の初心」と人生の中にいくつもの初心があり、それらを忘れてはならないと言っています。

「若い時の初心」とは、具体的には24~25歳の頃です。能役者が苦労して成人を迎える頃、声も落ち着き、舞(まい)も舞えるようになってくると、周りが、「ああ、名人が登場した」とほめたりします。それで思わず、「自分は本当に天才なのかもしれない」と思ったりするわけですが、そんなところで調子に乗るのはとんでもない、むしろこの時期にこそ、改めて自分の未熟さに気づき、周りの先輩や師匠に質問したりして自分を磨き上げていかなければ、芸がそこで止まってしまう、といましめているのです。

つまり、「初めの未熟な自分を忘れるな」そして、「いつの時も、老後も含めて、未熟さを忘れず、努力し続けなさい」と言っているのだと思います。

50歳半ばを過ぎて、最近、本当の意味を知りました。まだまだ未熟です。

